



カバフローリング・クリ樫・本床畳の風合い。



庶民的ながら「透き」を意識した構成。



竣工直前、寝間と居間は畳敷きでつながる。



寝間の障子は遮光和紙。



基壇に畳んだ衣類、中段に布団、上段はハンガーハイブ。

寝食分離(3LDK)から寝食文分離(4DOK)へ

マンションへの抵抗感は、「型」の押しつけにある。

広めの住戸とされる3LDKの間取りはみな同じ。

風通しは今ひとつで、内部の可変性はない。

まだまだ田舎風も残るこの地で、もらった大根や白菜、あるいは長靴やベビーカーを置く場所がない。

2DKの極小公団住宅に住んだ経験と、大震災仮設住宅の事例視察を踏まえ、手始めに二点を検討した。

一つは寝室で、20坪強しかない床面積のなかで、nLDKのnを夫婦と子どもの数から割り出し、巨大なベッドを3台も4台も持ち込むのは過剰だ。

狭くてもよいから、きちんとした量とふとんで寝たい。

むしろ続き間で、親類の宿泊や、閉塞感解消が図ればよい。

中央水回りを除いた東西の長手距離は各々4.3M程度、通常寝具寸法は2M前後なので、寝間の内法寸法を7尺=2.1Mに限定し、畳は700ミリ幅に詰めて3列敷き込み、これを2連ずつ2ユニット配した。

天井も低いので、要するに2.1立方M空間が各人の寝間だ。

ただし奥の部屋は採光がないから、可動間仕切りで仕切る。

当然、布団と衣類の置場が必要なので、南の大きな界壁側に内法750ミリの大型造り付け3段押入を設け、下段に衣類引出し、中段に布団、上段にハンガーを設けた。

二つ目は、西山・吉武・鈴木らが主導した、昭和の寝食分離論のその後である。

現代はインターネット環境を標準とするが、ペーパーレス社会どころか、地域や学校、家計など、実は書類の山である。

しかも自分の場合、書籍が増えやすい仕事と来ている。

すなわち家庭内で「文」の要素が増え、寝・食・文の適切な分離が不可欠な時代に入っているように思える。

もちろん総面積が増える訳ではないから、その「文」の間は、家族共用の仕事場とするのが一策だ。

これは、各戸をSOHO (Small Office, Home Office)化し、あわせて子どもを子ども部屋から引き出して、不健康さを解消する可能性を意味しているし、それは近い将来、職住がふたたび近接することを暗示しているともとれる。

あえてnLDK表示で説明するならば、今回は4つの寝間、茶の間(ダイニング)と仕事場(オフィス)を設けたことから、4DOKとでも表せよう。

花壇の立体長屋 宮城県仙台市 2013

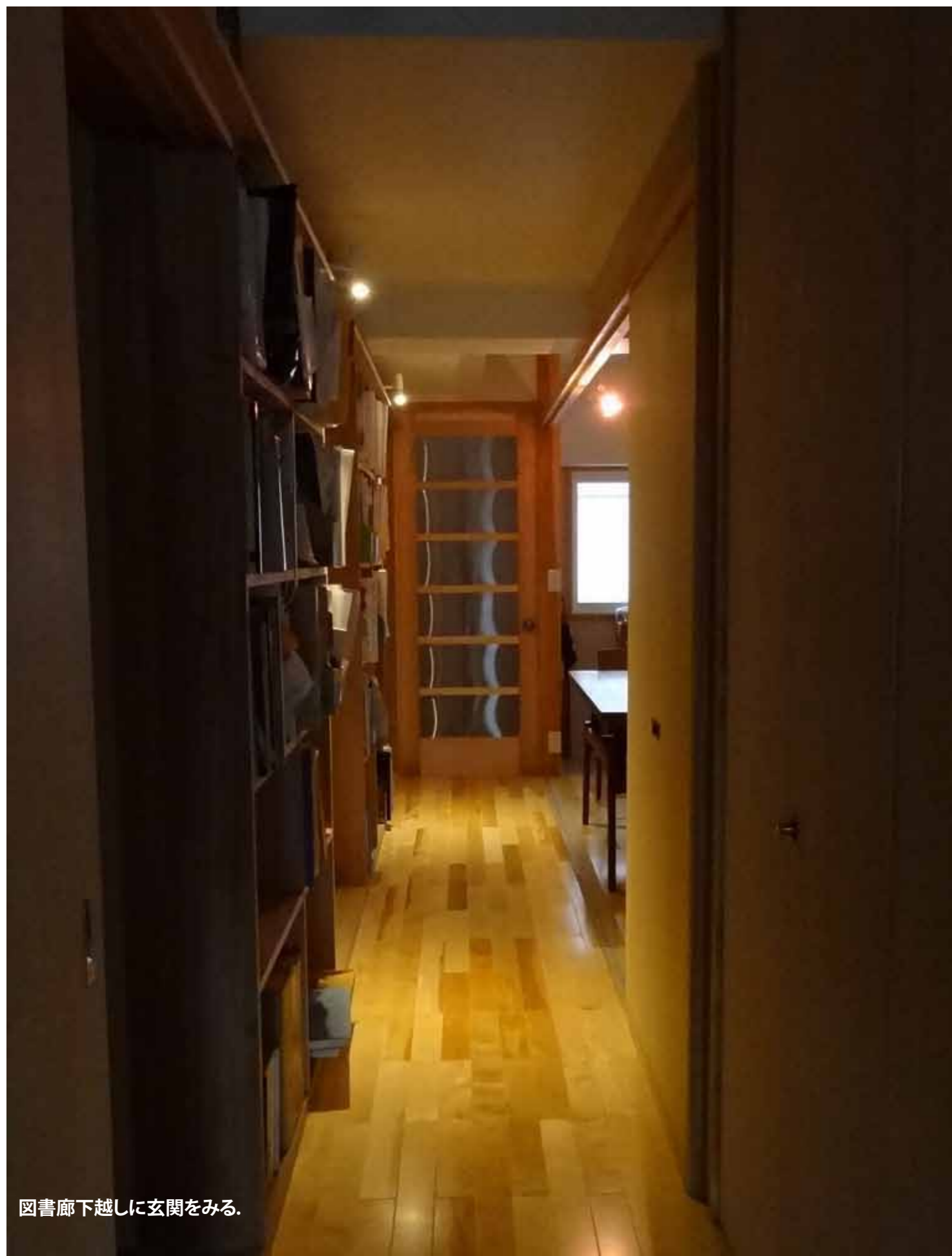
Masahiro ONUMA



共用書斎の生活感、共用開放廊下に溢れ出す。



共用書斎から図書廊下を経て西側の2つの寝間につながる。



図書廊下越しに玄関をみる。



図書廊下と共用書斎は戸袋から現れる4枚の戸で仕切ることができる。

透きと味わいをめざした寸法調整と素材選択

当該住戸はほぼ東向きで、玄関は西入、間口は6.3M、奥行は12.5Mと、採光にやや難がある。

中央の水回りは改修しにくい、幸運にも着工時期に共用パイプ類の大規模修繕が行われたため、南ウイングの風呂や便所の器具更新を済ませ、北ウイングは、東西の風通しを止めていた台所の向きを変え、東の居間と西の仕事場をつないだ。

寝間の寸法調整によって旧中廊下にはみ出してくる間仕切り線は、廊下の実質的な居室への編入を誘う。

中廊下の面積はもったいないが、廊下を部屋に編入すると北西居室の採光面積が不足するため、可動間仕切りを設け、普段は開放、夜間や冬期は閉められるようにした。

さらに、寝間の落ち着きを考え、廊下と寝間の界壁は造り付けの本棚を設け、書庫を兼ねたアガチス材の図書廊下とした。

続いて、これに平行する奥行600ミリの薄型キッチンを北壁側に設け、廊下とのあいだに作業動線と両側からの収納空間を設けて、押入・寝間・本棚・廊下・物入・キッチン部を微調整して現状寸法内に納めることができた。

施工は、リフォームにしてはかなりの時間を要したが、とくに躯体には長年のダメージがあり、エポキシ注入等の補修を行ったほか、現状や旧知の業者の保管資材にあわせて木材や仕上材を調達、現場加工した。

隣接住戸の方々にご理解頂き感謝している。

以上、素材選びから照明計画まで、低予算のなかで重ねた苦労の甲斐あって、「透きと味わい」のある唯一無二の長屋的住戸を何とか創出することができたと思いたい。

この型に類するような、開放性をもった住まいが積層すれば、すなわち立体長屋が一般化すれば、都市居住も今一度、楽しさや暖かさを取り戻せるのではないだろうか。

工事概要

工事種別 模様替え(マンションリフォーム)

専有面積 76.27sqm

主な工事 開口部:樹脂サッシ内窓 | 壁:断熱+珪藻壁紙 | 床:ゴム板+軽量鋼大引+合板t24の上カバ材・本床畳 | 樫材:クリ | 建具:スギ・遮光障子・ワーロン材 | 給湯・衛生・台所設備機器交換 | 照明類:LEDブラケット等

設計 大沼正寛(東北工業大学)

施工 アトリエ海・奥山功・東北工業大学大沼研究室

施工協力 菊電社・富国設備・石垣建具・小野畳店・YKKAP他